

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	松が谷福祉会館 こども療育室			
○保護者評価実施期間	令和7年12月8日 ～ 令和7年12月26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児童発達支援 155名 放課後等デイサービス 2名	(回答者数)	児童発達支援 85名 放課後等デイサービス 2名
○従業者評価実施期間	令和7年12月5日 ～ 令和7年12月26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数)	35名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多職種による支援	・グループ療育では、職員の配置をグループの特性に応じて適切な配置となるように、心理士、言語聴覚士、作業療法士、保育士等の職種のバランスや人数等を考慮している。	・安定した支援が提供できるように、グループ前後の打合せやケース会議等で、お子さんの見立てを共通認識したり情報共有をしたりし、日々の職員間連携を大切にしながら、より質の高い支援を目指していく。
2	・地域との連携	・保護者のご意向を確認しながら、同意の下で地域の所属集団との連携を進めている。園への訪問もしくは電話等での情報共有や必要に応じて助言をしている。 ・園からの療育の様子の見学も随時受入れている。	・お子さんやご家族の日常生活や社会生活が円滑に営めることを意識し、療育での経験が生活の中に活かされるための連携を図っていく。
3	・満足度が高い	・お子さん自身が達成感が得られるように発達段階に合った活動や関わりの工夫をしている。お子さんの行動や職員の関わり、設定した活動の意味を十分に説明し、ご家族の思いにも丁寧に対応するように心掛けている。	・お子さんとそのご家族の方の気持ちや様子に心を配り、少しでもご満足いただけるように今後も努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・建物の老朽化	・経年劣化に伴う設備の使いにくさや心配がある。	・日々の環境整備、清掃を通して、明るい雰囲気を中心掛け、安心して通所していただけるように努めていく。 ・現在、「(仮称)北上野二丁目福祉施設基本計画」が策定され、移転に向けて計画に沿って整備を進めている。
2	・保護者同士の交流の機会を求める声がある	・グループ療育後の振返りの機会を設けているが、運営上の都合により時間に限りがあり、不足を感じる意見に繋がった。	・保護者連携の期待を改めて認識している。希望に合わせてより充実した連携が提供できるように工夫していく。
3	・情報発信や連絡の手段が限られている	・これまで、情報発信や連絡は、主に電話と対面、紙ツールで行ってきた。 ・システムの導入から間がなく、まだシステムを使用した連絡の実績が限られている。	・お知らせのメール配信や、欠席連絡のシステムを導入し、活用を進めていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果 児童発達支援・放課後等デイサービス

事業所名	松が谷福祉会館 こども療育室
------	----------------

公表日

令和8年2月3日

()・・・放課後等デイサービス

利用児童数

児童発達支援

155人

放課後等デイサービス

2人

児童発達支援

85

回収数 放課後等デイサービス

2

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	無回答	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	84 (2)	1	0	0	0	少人数でゆったりできるところがよい	・定員、職員配置等、基準は満たしていますが、より良い環境について工夫を続けていきたいと思います。職員配置では、グループの特性に応じて適切な配置となるよう、職種のバランスや人数等を考慮していきたいと思います。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	82 (2)	2	0	1	0	・集団療育の際に、先生が子どもを抑える時に、本当に短時間ですが目を離れてしまう場合が稀にある。安全は確保されているが、子どもの様子をもう少ししてもらえるとありがたい。 ・園に比べるとかなり手厚いと思います ・何かあればすぐ手が伸びる場所にくれるのでありがたい	・いただいたご意見を職員に周知し、指導面だけでなく、来館・退館時などもそれぞれのお子さんに目を配るように努めて参ります。引き続き、丁寧な支援に心がけていきたいと思います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	77 (2)	5	0	3	0		・建物の老朽に伴う設備の使いにくさがあることを認識しており、設備や教員の不備や老朽化について、日々確認し整備を行っています。引き続き、清掃や環境整備を通して清潔で明るい雰囲気作りを心掛け、安心して通所していただけるように努めて参ります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	81 (2)	3	0	1	0	基本的には清潔で整頓され、安全にも配慮された様子があり、安心できます。ただ、少し古い点があります。	
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	79 (2)	2	1	3	0	親としても子どもの理解と接し方が勉強になります。	・必要な支援やプログラムの目的について丁寧に説明し、療育についてや必要な支援についてわかりやすく伝えることに努めています。また、保護者の方にお子さんへの関わり方や必要な環境調整を見ていただくことも支援の一つと考えています。これからも、お子さん・保護者の方それぞれに対して適切な支援を続けていきたいと思います。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	79 (1)	2	0	4 (1)	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていると思いますか。	79 (2)	5	0	1	0	・子どものことをよく見てくれていると感じる。 ・なぜこのプログラムをしているか説明してくださって、狙いが共有されていて有難いです。	・専門評価を通した状態の確認とモニタリングの結果を踏まえ、児童発達支援管理責任者を含む多職種によりガイドラインに基づく支援計画の作成及び活動プログラムの決定を行っています。また、支援前後の綿密な打合せやケース会議等を通し、総合的な判断のもと支援計画やプログラムの見直しを行っています。今後も、保護者の希望や願いをお聞きしながら、一人ひとりのお子さんに合わせた支援計画の設定や工夫された活動プログラムの提供に努めて参ります。
	8	個別支援計画には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	77 (2)	4	0	4	0		
	9	個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	78 (2)	2	0	5	0	計画が認識できていません…すみません…	・個別支援計画作成時、モニタリング時に支援内容についてわかりやすく丁寧に説明をするように、職員に周知し徹底していきたいと思います。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	77 (2)	6	0	2	0		・現在こども療育室として行っている地域交流のイベント等はありませんが、地域に向けた啓発や講演会、お子さんの所属機関との連携等を通して、地域への移行や地域活動への参加を促していきます。
保護者 への 説明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園、放課後児童クラブ、児童館等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	63 (1)	12	5	5 (1)	0	お察りで少しいですが関わります。	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	79 (2)	5	1	0	0		
	13	「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	81 (2)	2	0	2	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	66 (1)	8	4	7 (1)	0		・家庭支援プログラムとして、卒園児の保護者の話を聞く機会を設けたり、講演会を実施したりしています。引き続き、保護者の方のニーズに合わせて実施していきたいと思います。
	15	15頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	73 (2)	9	0	3	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	77 (2)	5	0	3	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	79 (2)	6	0	2	0		・グループの振り返りの時間を通して保護者同士の交流や情報共有の時間を作っています。交流の機会を更に充実させていけるよう、検討していきたいと思います。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	31 (1)	27	5	22	0	・きょうだい向けのイベントはまだ参加したことがない（下の子連れで集団療育に参加したことはある） ・都合が合わないことが多く、きょうだいへの支援についてはすみませんがわかりません。 ・もう少し親同士の交流の場が沢山あったら嬉しいです	・現在、家庭支援プログラムとしてきょうだい向けのイベント等は開催していません。保護者の方への支援だけでなく、家庭の中でのきょうだいを含めた支援について、できることを検討していきたいです。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	72 (1)	7	0	6	(1)	とてもよくされている	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	76 (1)	8	0	1	(1)	連絡が電話が中心なのでメールなどでやり取りできるとありがたい。17:00には得られてるので電話だとなかなか息切れ疎通が難しい	・以前より、電話や対面以外の連絡についてご要望があることを認識していました。今年度、通所している保護者の方が時間外でもWeb上で欠席連絡ができるようにシステムを導入しました。また、講演会

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	31 (1)	19	5	30	(1)	ホームページやSNSを見てない	等のお知らせをメール配信できるようにし、電話・対面以外での連絡方法を増やして対応しています。 ・ホームページに、支援プログラムや第三者評価の実施結果、ガイドラインによる自己評価結果等を掲載しています。保護者の方にもわかりやすく周知し、情報発信を続けていきたいと思います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	80 (1)	2	0	3	(1)		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	74 (1)	3	1	7	(1)		・事故やけがの発生、その他危険な状況等があれば、同伴されている保護者の方に説明するよう徹底しています。引き続き、安全な環境を整え、支援を行っていききたいと思います。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	69 (1)	2	1	13	(1)		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	78 (1)	2	0	5	(1)		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	59 (1)	2	0	24	(1)	私自身では発生したことがない。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	83 (1)	2	0	0	(1)		・引き続き、お子さんも保護者の方も安心して通っていただけるように、個々のニーズに合わせた支援を心がけ、満足度の高い支援になるよう努めて参ります。お子さんが通所を渋ったり、これまでと異なる取組みの姿が見られたりした場合は、その背景を保護者の方と一緒に考え、望ましい対応を工夫していききたいと思います。 ・質の高い支援を多くの方に利用していただくための頻度となっていますが、より高い頻度での指導への要望があることも認識しています。現在必要な支援について整理してお伝えしたり、地域の障害福祉サービスをご案内する等し、お子さんにとって必要な支援につながるよう努めて参ります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	70 (1)	11	2	2	(1)	・息子は毎回とても楽しみにしています。保育園とはまた違った楽しさがあるようです。 ・気分にもうらがある ・園を休まないと行けないので嫌がる	
	29	事業所の支援に満足していますか。	76 (1)	8	1	0	(1)	質には満足しているが、回数が少ないと感じる	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		松が谷福祉会館 こども療育室				公表日 令和8年2月3日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・ 職員の配置や時間の設定などを工夫し、限られた環境を有効に使用して指導できるようにしている。 ・ 環境整備や日々の清掃を通し、できるだけ安全で利用しやすい環境を整えている。	・ 利用児の増加から、指導に使用する部屋の確保が難しい場合がある。 ・ 建物の老朽化から使いにくさがある。特に、和式トイレやトイレの数は利用者にとって不便である。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・ 職員打合せや職場内研修、自己評価、第三者評価(令和7年度実施)を通して業務改善につなげている。 ・ 多職種による連携会議の実施や、外部研修への参加により、職場全体のスキルアップを図っている。	・ 今後も、日々の業務、支援を振返る機会を設け、業務改善に努めていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・ ケース会議や職種間の情報共有等の様々な機会を通し、総合的な判断のもと支援内容の決定や見直しを行っている。 ・ 専門評価や行動観察により、こどもの発達状況を確認し、児童発達支援管理責任者、指導担当者等を含む多職種により計画作成を行っている。	・ 引続き、一人ひとりのお子さんに合わせた支援計画の設定や工夫された活動プログラムが提供できるように、職員同士連携をとりながら進めていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・支援前後には必ず打ち合わせを行い、その日の支援を確認したり個々に合わせた関わりについて共通理解したりしている。都度、プログラムの構成や見直しをしている。 ・職員配置の工夫や、システムの活用を通して、事務の効率化や体制の確保を行っている。	・支援に関する取組みを充実させるためには、事務の効率化を図っていく必要がある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・保育園、こども園、幼稚園等のこどもの所属機関や、保健所、教育機関等との連携を保護者の同意のもと行い、情報共有や相互理解を図っている。また、連携をとることを通じて地域全体の子育て支援力の向上に努めている。	・引続き、中核的機能を果たす施設として、保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携し、お子さんとそのご家族が日常生活や社会生活を円滑に営めるように支援に努めていく。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○				
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)	○				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・家庭支援プログラムの一環として、外部講師による子育てや発達に関する講演会を実施している。 ・グループ療育後の振り返りの場を設定し、保護者同士の連携やお話を聞く機会を設けている。加えて、電話での相談や面談の機会を設けて相談に対応している。			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・地域の方に向けて、ペアレントプログラム講演会を年4回開催している。			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○					
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時、計画等の説明を丁寧に行うようにしている。		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・家庭支援プログラムとして、就学、就園に向けた情報提供、0・1・2歳児の交流の機会などを設けている。	・きょうだい児支援については、活動の見学は随時受入れおり、療育の雰囲気を感じていただく機会はあるが、改まった形でのきょうだい児支援は現在行っていないため、ニーズに合わせた家族支援のあり方について検討を続けていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・外部との情報共有や連絡をとる場合は、保護者への連絡・了承を得ている。 ・マニュアルに沿って、職場内研修や避難訓練等を行っている。 ・食事提供はないが、アレルギーについて、小麦粉粘土などアレルギーを引き起こす可能性がある素材は教材に使用しないようにしている。 ・保護者の方の同伴を基本としているため、来館時の体調や服薬状況などを確認したり、支援場面で普段と違う様子があれば保護者の方に確認したりした上で支援を行っている。	・服薬やてんかん等についての配慮事項について、利用開始時だけでなく都度の確認や聞き取りを行うようにする必要がある。 ＊食物アレルギーについては、食事の提供を行っていないため非該当。 ・各種マニュアルや計画の見直しを行いながら、色々な状況に対応できるように修正していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			